

令和 6 年度 第 5 回旭市総合戦略推進委員会（次期総合戦略策定）

議事録【要約】

日時：令和 7 年 2 月 27 日（木）10：00～11：00

場所：旭市役所 3 階 政策決定室

○出席者

《委員》

鎌田 元弘 委員長	出	柳 明美 副委員長	出	鈴木 正雄 委員	出
加瀬 哲郎 委員	出	林 千夏 委員	出	伊藤 直美 委員	欠
嶋田 隆 委員	出	奈良 暁子 委員	出	石毛 良樹 委員	欠
佐藤 勝彦 委員	出	梅田 和男 委員	欠	宮内 夏子 委員	出
飯田 周作 委員	欠	嶋田 明範 委員	出	加瀬 修一 委員	欠
花香 真菜 委員	出	西坂 重信 委員	出	水野 竜也 委員	出

《事務局》 旭市企画政策課：柴課長、江戸副課長、角川班長、高木

《支援業務受注者》（株）ちばぎん総合研究所 福田、大塚

○配布資料（事前配布）

- ・ 次第
- ・ 資料 1 第 3 期旭市総合戦略（素案）に関するパブリックコメントの実施結果について
- ・ 資料 2 第 3 期旭市総合戦略
- ・ 資料 3 第 4 次旭市定住自立圏共生ビジョン

○会議内容

1 開会

2 市長あいさつ

3 議題

委員長：「（1）第 3 期旭市総合戦略」について、事務局からの説明をお願いします。

事務局：資料 1、2 について説明。

委員長：ご意見、ご質問ありましたらお願いします。

委員長：無いようですので、採決に入りたいと思います。

【全員挙手】

委員長：全員賛成と認めます。これをもって最終案として了承されたものと致します。

委員長：「(2) 第4次旭市定住自立圏共生ビジョン」について、事務局からの説明をお願いします。

事務局：資料3について説明。

委員：文言の確認ですが23ページの観光ガイド等の作成とあるが、観光ガイドは人のことを指すため、観光ガイドブックに修正すべき。

事務局：意図としてはガイドブックですので、修正いたします。

委員：表紙の旭市20周年のロゴは公式ロゴとして今後使っていくのか。また、盛り上がっていくための関連イベントなどはあるのか。

事務局：ロゴは募集をして正式に決定したものになります。今後市でも様々な場面で利用していきますが、他で使いたい場合などありましたら総務課に相談いただければと思います。

委員：先日の日本農業新聞にふるさと回帰支援センターの移住相談件数が初めて6万件を超えたという記事があった。来場者は20代から40代が67%ということで旭市も定住していただくには若い人が良いと思う。移住の優先順位は複数回答で一番多いのは就労の場があるが53%、自然環境が良いが45%、住居が30%順となっている。トップが群馬県で、千葉県は全国13位でどちらかといえば上位にある。就労の場や自然環境が良いということが評価されているため、旭市も頑張ってもらいたい。

また、昨日NHKで子どもを産みたくても産婦人科がない市町村が全国1,000以上あるということであった。産科のある病院に行くために1時間半以上かけて車で移動する必要がある自治体も多くある。旭市においては旭中央病院が受け皿になり非常に助かっている状況である。銚子市では産科が無くなってしまったと言われている。旭中央病院の考えもありますが、宿泊施設も備えてほしいと思う。北欧の国では出産の2週間前から待機できるため安心感がある。病院まで1時間半かけて運転するのは不安もあり、2人目3人目は、どうしようかと考えてしまう人もいるので、旭市が全国に先駆けて対応してもらえれば市民も助かるし、旭市に住みたいねとなれば良いかなと思う。

次に、こども食堂について、旭市は全国有数の農業産出額を誇る自治体であることから、食料提供が必要な場合にはJAなども含め上手く連携しながら先進的な取り組みができるのではないかと。旭市には畜産や野菜があるが、千葉市など都会の方では野菜がないかわりに食品メーカーが立地している。こちらからは、野菜と食品を交換するなどして上手く運営できるのではないかと考えている。ご飯も食べられない児童が旭市に何人いるのか把握しながら進めてほしい。

事務局：ふるさと回帰支援センターは、旭市も利用していてパンフレットも設置しています。まずは旭市という名前を知っていただくことが大切だと思っています。そこで興味を持っていただいた方が旭市について聞きたい、相談したいといったことに繋がっていくと考えています。また、移住サポートセンターを設置し、東京のふるさと回帰支援センターで旭市を知っていただき、その後により旭市がどのような場所か移住サポートセンターで聞いていただくという流れで移住に繋がりたいと動いているところです。旭市は魅力的な場所ということはサポートセンターの職員も十分に承知していますので、移住相談者に対しては丁寧な対応をしていただいていると思っています。

また、産科については、旭中央病院があることで、非常に安心していただける部分だと思っています。この安心感という部分も移住につなげていける強みの一つと思っています。

最後に、こども食堂について、実際に食事ができないこどもの数は把握できていません。市内でも動きはあり、始めたいといった話もあるところです。

委員：妊婦に限らず、病院には市外からもたくさん人が来るので、病院の近くに宿泊施設があれば良いと個人的にも思っている。民間の力も借りて宿泊施設ができれば周辺に更に賑わいも出てくるのではないかなと思う。

委員：先ほど、ふるさと回帰支援センターと移住サポートセンターの説明があったので補足としてご理解いただければと思う。移住サポートセンターとしては、ふるさと回帰支援センターがある有楽町に2か月に1回程度訪問して情報交換をしている。千葉県のブースがあるが、県内自治体の中でも、そこまで交流をもっているのは旭市だけではないかと自負している。担当者も旭市のことを良く知ってくれていることから、まずは旭市を知ってもらい、そこから移住サポートセンターに連絡をもらうという流れは順調に進んでいると思っている。

委員：移住の関係では、旭市、銚子市、匝瑳市の3市で連携して取り組もうとしている。今年度からは海匝地域だけでなく、香取市や多古町、東庄町などと一緒にふるさと回帰支援センターの会議室を利用してセミナーを開くといったこともしている。九十九里地域として、海匝、山武、長生地域、そして県も連携していく。そのような中で多古町に興味があった方が旭市も見えて知って帰っていただけたという効果も出ている。引き続き県では広域での連携を展開していきたいと考えている。

委員長：それでは冒頭にご指摘いただいた委員のご意見を踏まえて修正したものを最終案とすることに賛成される方は挙手をお願いします。

【全員挙手】

委員長：ありがとうございます。全員賛成と認めます。これをもって旭市定住自立圏共生ビジョンは、最終案として了承することといたします。

4 その他

委員長：「その他」について、事務局からの説明をお願いします。

事務局：今回ご審議いただいた第3期旭市総合戦略ですが、最終的には、それぞれ別の委員会で審議いただいている行政改革アクションプランや国土強靱化地域計画と一体化し1つの冊子となります。一体化しました第3期旭市総合戦略の冊子と、第4次定住自立圏共生ビジョンにつきましては、3月中旬に皆様に郵送する予定でございますので、よろしくお願いいたします。

課長：これまで鎌田委員長をはじめ委員の皆様におかれましては、2年間にわたりご協力いただきありがとうございました。各回とも貴重なご提言をいただきまして最終案としてまとめることができました。事務局としては策定が仕事ではなく、記載している内容について毎年実施している評価のなかで進捗管理も継続して実施してまいりますので、今後とも委員の皆様におかれましてはご協力をいただければと思います。ありがとうございました。

5 閉会